

甲斐市議会建設経済常任委員会会議録

1. 開催日時 平成25年2月27日

2. 招集場所 甲斐市役所本館4階 委員会室A

出席委員（7名）

委員長	清水正二君	副委員長	藤田悟君
	八代静枝君		坂本一之君
	山本英俊君		藤原正夫君
	小浦宗光君		

欠席委員（なし）

説明のため出席した者の職氏名

建設産業部長	花形保彦君	都市計画課長	武川訓君
まちづくり 推進係長	丸山英資君		

職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	金丸博	書記	小澤明
書記	興石文明	書記	松井恵美

開会 午後 1時29分

○委員長（清水正二君） どうもご参集ご苦勞さまでございます。

非常に寒い中ですが、日曜日には、甲斐市の甲斐梅の里クロスカントリーが開かれまして、2,578人という参加者があったということで、また同日、東京では東京シティマラソンがありまして、ランナーの中に1人、心肺停止の方が出て、それを同じく走っていたランナーが救命措置をして、AEDとかによって、交番に飛んで行ってAEDを持ってきて、一命と取りとめたという、非常に救命防災に対しても、救命ということが言われている中で、そういったことが報道されたということは、やはりいろいろな意味においても人命尊重というふうなことの立場からも、非常に心温まる事例だというふうに感じております。

また、4日から本会議が始まるわけですが、その前の建設委員会の審議ということで、道路整備計画についてご審議いただくわけですが、慎重審議の上、また、活発なご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

ただいまの出席委員は7名です。定足数に達しておりますので、これより建設経済常任委員会を開会します。

本日の会議を開きます。

○委員長（清水正二君） 本日の委員会は、お手元に配付した次第のとおり進めたいと思っております。

それでは、次第3の内容に入ります。

内容1、甲斐市道路整備計画（案）について議題といたします。

担当より説明をお願いいたします。

武川都市計画課長。

○都市計画課長（武川 訓君） どうもご苦勞さまです。

それでは、甲斐市道路整備計画につきましてご説明をさせていただきます。

この道路整備計画の策定に当たりましては、甲斐市の総合計画や都市計画マスタープラン等で道路整備計画の方針が示されていることから、上位計画による整備指針及び昨年行われ

ました市民アンケートによる道路整備等の意向を把握して、将来の整備目標とする幹線道路の整備目標、また、現在の道路網とあわせた将来の道路網の構築を図るため、今回、道路整備計画を作成したところであります。また、この計画の策定により、合併以降明確でなかった道路区分を示し、限られた財源の中で計画的・効率的な整備を図ってまいりたいと考えております。

それでは、整備計画の内容につきましては、本日お配りしました概要版と前の画面のほうによりまして説明をさせていただきます。

それでは、概要版の1ページをお願いいたします。

道路整備計画は、甲斐市の総合計画の誰もが利用しやすい優しい道があるまちづくりを目指し、今回、道路整備計画を策定したところであります。

計画の目的につきましては、生活を支えている市道を対象に、1つ目として交通弱者への配慮、2つ目として安全性の確保、3つ目に通行円滑性の3つの観点から、将来の整備計画の方向性を明らかにしたものであります。

計画策定に当たっては、現在の甲斐市の姿、道路状況等を把握し、また、現在の道路網の混雑などの交通状況の課題の分析を行いまして、昨年実施しました市民アンケート、また総合計画などの上位の関連計画により道路整備の考え方などを確認して、市道の整備目的を整備をしたところであります。

これらを踏まえまして、生活幹線道路の将来道路網と生活密着道路の整備指針を作成したところであります。生活幹線道路につきましては、国道や県道等の幹線に次ぐ幹線市道であり、生活密着道路は、住宅地内にある日常生活に密着した道路幅の狭い道路であります。

計画期間につきましては平成25年から平成35年のおおむね10年計画としまして、おおむね5年をめやすに見直しを行うものでございます。

考え方につきましては、この後の計画書の3ページのほうに詳細が載っております。

次に、概要版の2ページをお願いしたいと思います。

2ページにつきましては、甲斐市の現状を整理しております。

人口、高齢者率等の現状の状況、また、道路については、東西に結ぶ道路網は国道20号線や国道52号線のほか県道など幹線道路が多く配置しており、南北には甲斐中央線があり、田富敷島線の整備が現在進められているところでございます。

一番下の段になりますが、市道の整備状況であります。平成24年現在、路線数が1,420本、延長が約424キロ、うち舗装済みの道路が402キロで約95%、歩道付きの道路が48キロで約

11%となっております。この甲斐市の現状につきましては、先ほどの計画書の4ページから13ページに詳細の内容があります。

次に、概要版の3ページになります。交通混雑の状況の平成32年度までの予想の交通量になります。図面の赤い線が入っている路線が最も混雑しておりまして、次にオレンジ、黄緑、水色の順となっております。

図にありますように、南北方面では田富敷島線に交通量が集中し、混雑し、南北に長い市内の移動を考えると、南北軸の道路の少ないことが課題となっております。また、東西方向では、主要幹線である国道20号線、甲斐芦安線、甲府韮崎線、現在工事を行っております開発1号線等の混雑が予想されております。

次に、概要版の4ページにつきましては、これは市民アンケートの結果になります。

昨年5月に二十歳以上の男女2,000人を対象に実施をし、826人から回答がありまして、回収率が41.3%、アンケートの内容につきましては計画書の14ページから結果等が記載されておりますが、甲斐市内の道路の満足度を初め大きく6項目について質問等を行っております。アンケートの詳細は、計画書の14ページから31ページに結果等が入っております。

概要版の4ページにありますように、特に整備に重点を置く項目では、表にもありますように、歩行者の安全性や快適性の向上、また、生活道路の整備、自転車通行スペースの整備等がおおむね50%を超えております。これらのアンケートの結果を踏まえまして、市道を生活幹線道路と生活密着道路に分け、整備を強化する項目を整理をしたところでございます。

生活幹線道路とは、先ほど説明いたしました、国県道の幹線に次ぐ幹線市道であり、具体的には市の都市計画道路で都市計画決定済みの、例えば滝坂希望ヶ丘線、また未整備路線としては、竜王駅裏通り線などでございます。

また、幹線市道とは、国県道を補完する幹線機能を有した道路ということで、富竹新田上八幡線、堺大下条線などが入ります。また、幹線道路等への連絡市道等は、住宅地区等から幹線道路に出るまでの道路ということで、竜王田中線、また八幡新田玉川線などになります。また、生活密着道路は住宅内にある日常生活に密着した道路幅の狭い道路をいいます。

これらの道路をそれぞれ整備強化すべき項目として、下の図になりますが、生活幹線道路につきましては、通勤通学用の道路の整備、駅までの道路整備等5項目になっております。また、生活密着道路につきましては、歩道の設置、段差の解消、通学路の整備等6項目に整理をしたところであります。

5ページ以降に上位計画、市民意向調査、交通状況などから生活幹線道路、生活密着道路

の整備目的を整理をしてあります。

生活幹線道路につきましては将来の道路網の構想図、生活密着道路につきましては整備指針をそれぞれ作成したところであります。これは、計画書の32ページから50ページに計画書の詳細があります。

まず、5ページの生活幹線道路の整備目的につきましては、表にもありますように、1つ目として市内の拠点を連携する道路、2つ目として幹線を補完する市道、3つ目として幹線までの道路の大きく3つに区分したところであります。

1つ目の市内の拠点を連携する道路では、1点目が、竜王駅を中心とした都市拠点と敷島総合文化会館周辺、塩崎駅周辺、双葉スマートインター周辺、また、各市役所周辺の地域拠点には複合的な都市機能の配置、集積による中心性の高いコンパクトな市街地形成が進められており、これらの各拠点を連携させ、一体の都市を形成するような道路整備となっております。また、2点目が竜王駅周辺の循環道路の整備、3点目が竜王駅北口から赤坂台や双葉地区方面への連絡道路の整備、これらの3点が市内の都市拠点とその他の拠点とを連結道路の整備となっております。

2つ目の国県道を補完する幹線市道の整備では、1点目が、市の現状におきましては南北軸の道路が少ないことから、田富敷島線以外の南北方向ルートの幹線道路の検討、また、2点目が国県道を補完する地域内外を連絡する幹線道路の整備であります。

3つ目の幹線までの道路では、国県道及び幹線市道など幹線道路への連絡する道路整備、また、集落拠点のネットワーク化になっております。

これらの大きく3項目の生活幹線道路の整備目的から、道路網の構想図を作成したところであります。

生活密着道路につきましては、利用しやすい歩行空間の形成、必要箇所の改良や道路区間の再構築を整備目的として、この概要版の最後のページになりますが、整備指針を策定したところであります。

以上、概要版の1から5ページなどの説明となりますが、6ページ以降の生活幹線道路の道路網の構想図の詳細、また、生活密着道路の整備指針につきましては、詳細につきましては係長のほうから説明をしますので、よろしく願いいたします。

○委員長（清水正二君） 丸山係長。

○まちづくり推進係長（丸山英資君） 今、課長のほうから大きく生活幹線道路という役割をご説明させていただきました。これにつきましては、これまで市道というばかりで、道路的

な規格がなかったわけですが、今後、道路整備計画において整備方針という形で、お手元のA3判の道路網構想というものが一応計画として上げております。

先ほどご説明しました市内の都市とその他拠点とを連携する道路というものにつきましては、大きく我々が今現在います甲斐市の本署の位置、また、塩崎駅や双葉支所、また、敷島支所、この3つの拠点を結ぶ道路という形で、1つ目がここにありますが、都市拠点及び地域拠点との連携という形で、このような形でネットワークを形成したいと。あわせて、この3つの中には竜王駅が中心拠点としてありますので、やはり車については第二交通の駅へ向かうことから、駅を中心とした循環の道路、また、甲斐市については中央線で分断されておりますけれども、竜王駅北側から各拠点へ流れる道路整備を計画しております。

次に、大きく本来道路につきましては、市道の上位の道路といえますと国道、県道の高規格の道路があるわけですが、その道路を補完する役割として、こちらが山梨新環状道路、北部には、今、赤い線で茅ヶ岳東部広域農道とあるわけですが、このような道路の整備の想定を行いまして、ある程度補完する道路として考えております。このほか、現在併走している中央自動車道、また国道20号、南にはアルプス通り線があります。このような国道を結ぶ道路として、ピンクのような縦軸の道路網を検討しております。

このほか、幹線道路までの連携する道路、要するに、今現在、市役所の前の道があるわけなんですけれども、ちょうどこの部分ですと、釜無川沿い、市役所の前、また今現在、整備が山梨県で進められております都市計画道路田富町敷島線の縦軸は強いんですけれども、横に行く道路がないので、そのような道路を幹線までの補完という形で、このような黄色の道路を描いております。

一応、今後につきましては、道路網については、32年の道路が整備されたことを想定しながらこのような位置づけを行い、整備を行っていくための道路網であります。

よろしく申し上げます。

○委員長（清水正二君） 武川課長。

○都市計画課長（武川 訓君） 本日、概要版によりまして説明させていただきましたが、この道路整備計画に対しましてのご意見、ご提言等がありましたら、別紙で皆様にお配りしました意見提言書をお忙しいところまことに申しわけありませんが、3月13日までに事務局のほうへ提出をお願いしたいと思います。

以上です。

○委員長（清水正二君） 説明が終わりました。

これより説明に対する質疑を行います。議員の意見、提言については、説明のとおり、3月13日水曜日までにお手元の配付の用紙で提出をいただき、3月25日月曜日に委員会を開催し、回答をいただく予定であります。

訂正いたします。当局より補完の説明をいたしますので、今しばらくお待ちください。

丸山係長。

○まちづくり推進係長（丸山英資君） 失礼いたしました。

今、お手元に甲斐市の道路整備計画（案）という形で素案を配付させていただいております。大きくこの計画書につきましては、めくっていただきまして、1ページの目次にあります今回の整備計画の策定に伴いまして、まず現況、また交通実態の把握を行っております。そのほか、市民のアンケート、そのほか、これまでの甲斐市総合計画、また都市計画マスタープラン、また県の道路計画などの分析のデータを踏まえながら、第3章、第4章で位置づけを行っております。これらに基づき、第5章で基本計画の策定を行い、第6章の整備計画の策定という構成になっております。

めくっていただき、4ページからです。4ページ、5ページにつきましては、現況及び交通実態の把握という中で、甲斐市の位置、また、現在、甲斐市内に縦横断している道路のネットワークをお示ししております。

5ページにつきましては、今現在の人口推移ということの中で、やはり国勢調査からいきましても、人口減少の傾向の予測というのはやはり覆せない状態ですけれども、一応、少しでありますけれども、減少傾向にあるという結果があります。

次に、地区別の人口、また世帯という中で、内容については6ページ、7ページと説明が入っております。地区別につきましては、これまでの人口形態も皆様存じているとおり、約53%が竜王地区に集中しておりまして、敷島、双葉地区については大体20%台の人口配置となっております。

人口推移からいきますと、旧竜王、敷島については、表にありますとおり、22年度の国勢調査では、前回の17年度に比べ減少しておりますが、双葉地区等については、17年度の国勢調査の実績、22年度の比較をしますと、微増であるが、ふえている状況であります。これにつきましては、響が丘を初め新たな振興地の住宅が原因だと考えられます。

同様に、世帯数につきましては、人口減少に比べ、ふえているわけですが、先ほどお話ししました双葉地区がやはり若い方々の世帯がふえているのではないかとという中で、世帯数、ちょうど真ん中のグラフの表ですけれども、22年度棒グラフで2万8,207世帯、その

上の丸の実線で1世帯当たり2.62、世帯の数は減っていても微増ではありますけれども、世帯はふえているような結果でございます。

8ページ、9ページにつきましては、人口の構成のグラフです。やはり8ページの人口ピラミッドを見ていただくとわかると思いますけれども、団塊の世代、また団塊のジュニアが人口を多く占めているという結果が出ております。

次に、10ページにつきましては、車の保有率を示しております。

23年度現在、乗用車の自動車が約4万2,623台、1世帯当たりの保有台数は約1.7台という中で、やはり山梨県内については車がまず移動手段という、統計をとっても同様の数字が出ております。

次に、14ページから市民アンケートの結果となっております。

今回、平成24年5月に市内に在住する20歳以上の男女の方々を無作為に2,000人抽出させていただきまして、アンケートを実施しました。実施方法には郵送により配布と回収、期間については24年6月から7月のおおむね1カ月を行っております。回収結果につきましては、アンケートではなかなか実績がよかったと思いますけれども、回収率41.3%の実績が出ております。

17ページから、回答のものをグラフ化しております。

男女の割合からするとおおむね同じぐらい、50%ずつぐらいの、女性が多少多い53%となっております。回答の年齢別に見ますと、17ページの下の円グラフになりますけれども、ほぼ無作為に抽出させていただいてお願いしましたがけれども、各年代とも同じぐらいの割合で返していただいているという中では、やはり年齢問わず皆様車を使っているのかなということが分析されます。

18ページ、19ページにつきましては居住地、また家族構成、職業等でありますので、ちょっと省かせていただきます。

20ページから道路に対するアンケートを行っております。市内の道路の使いやすさ、快適性的なものといいますと、やはりこれまで旧町単位から道路の維持管理を行っておりますので、満足している方というのが約35%ぐらい、どちらとも言えないを含めると、もう50%を超えている状況であります。

21ページで、市内の道路整備に重点を置くべき項目ということで、アンケートを行わせていただいたんですけれども、1位から3位が歩行者の安全性や快適性の向上の整備というもの、また、生活道路の整備、近年、自転車事故が多いんですけれども、自転車の通行ス

ペースの整備というものが過半数を大きく上回っております。

一方、幹線道路とか主要施設までの道路整備というものが、これまでと違って大分減少している。これはまさしく旧町時代から計画に基づいて、ある程度道路整備が熟成してきたのかなということがうかがえます。

このようなアンケートの中で、交通的な手段といいますと、29ページの上段にあります市民の移動手段、80%が自家用車という部分でありますので、もちろん我々も公共交通の推進を行うんですけれども、道路の維持管理、また計画的な整備が必要であるというような観点から、今回、甲斐市として新たな道路整備計画を策定したものであります。

資料の32ページからが、今回の上位計画という、また関連計画という中で参照した計画であります。まさしく道路網ですので、山梨県の都市計画マスタープランで本市の都市計画マスタープラン、合併で検討してまいりました新市将来構想など、また福祉計画などを取り入れております。

先ほど、手前に出ている図面にもあります拠点というお話を幾つかさせていただいておりますけれども、資料の38ページ、39ページとなります。我々の市につきましては平成16年9月に合併を行い、これまで構成されていた旧3町が1つになっております。これまでの核となる施設を活用しながら、また、まちづくりを存続させるためにも拠点を中心とした道路網というものが、新市の合併のときの将来構想でも描かれたものを引き継ぎ、このような計画となっております。

このほか、今回の道路網の計画につきましては、資料の43ページにもございますけれども、防災も道路網という観点からも、幹線道路、また、各避難施設というものも意識しながら計画を策定させていただいております。

資料の52ページになります。

今回、先ほど課長が説明がありました平成32年度の将来道路網を想定してという言葉があります。これにつきましては、山梨県が都市計画道路を初め国道等の、同様に32年時点で計画する道路が完成されていると想定した道路網が52ページの、見にくいんですけれども、網図がつくられております。この網図に基づきまして、実際的に交通予測を行ったものが53ページとなります。

このような解析を踏まえまして、54ページに、32年度に道路ができていると想定された場合の混雑度の予測も加えております。先ほど課長が説明いたしましたけれども、甲斐市については縦軸に道路網が少ないことによって、今現在進めておりますけれども、やはり田富町

敷島線、旧敷島方面から国道20号に向かう道というものが交通量はなくなると。また、開発1号線についても旧双葉方面、先ほどお話ししました響が丘周辺というのが今後住宅がふえていくという見込みからも、やはり渋滞といいますか交通量が多いという予測が出ております。

このような計画、また解析を行う中で、今回57ページにあります基本計画の策定ということで、このフローに基づきまして、今回の計画を検討しております。

上位計画、また各種のデータ分析、また市民アンケートという3つの柱から、下に下りまして、市道の整備の目的、要するに市道も生活の幹線とするもの、生活で密着として使う市道という2項目に分けて、今後整備を進めていく流れとなっております。

大きく先ほどスクリーンに映し出しております拠点を結ぶ道、国県道を結ぶ道という道路網を示しておりますけれども、単純にただつなげる道ということではなくて、64ページ、お願いいたします。今回、整備するに当たりましては、位置的だけではなくて、ある程度国道、県道と結ぶものについては、整備ランク1という中で、これについては道路構造令を基準にして凡例としてつけておりますけれども、車道が64ページの上の道路、断面構成の例、商業地とありますけれども、車道を3メートルずつ確保しながら停留帯、また歩道を両側に整備する。このような2車線の両側歩道を生活道路の整備ランク1に位置づけていきたいと。

65ページに整備ランク2とあります。これにつきましては、国県道を補完する、要するに国道・県道を生活道路として市道と結ぶ場合については、車道を3メートルずつとりながら、片側歩道、または歩道がない状態で、幅員については、整備ランク1よりもコンパクトな道路整備です。

66ページ、このほか、ふだん我々の住宅地内の4メートルとか6メートル道路以外に、それ以上に生活に密着する道路については整備ランク3ということで、車道4メートル、また片側歩道、また片側歩道なしのこのような道路構造令を市道としても今後位置づけながら、計画的に整備を進めていくという計画をやっていきたいというものであります。

68ページをお願いいたします。

道路整備計画の策定という中で、下段の表にあります6の2、生活幹線道路整備目標時期について、先ほど、説明の中でおおむね10年という言葉が出ましたけれども、あくまでもこの網図というのは、32年度に計画する道路ができていたということを想定した網図となっております。この中から、今後、評価指標による整備目標を短期、中期、長期、5年、10年、10年以降と分けながら、市の財政状況及び今後の経済情勢を勘案して整備を推進していくよ

うな計画づくりを行っていくということを、この中で計画に位置づけという状況です。

あと、69ページが道路の評価指標という中で、単純に上から見るのではなく、幹線道路や連続性、また、歩道、通学路など交通弱者の配慮とか実現性というものを評価基準をつけながら、今後、整備の計画を立てていくという内容となっております。

簡単ですけれども、よろしく願いいたします。

○委員長（清水正二君） 説明が終わりました。

委員より確認事項、質疑等がありましたら、お願いいたします。

また、傍聴議員の質疑は、委員の質疑を受けた後に傍聴議員の質疑を受けたいと思います。なお、傍聴議員の質疑はさきの申し合わせのとおり、会派の割合人数により行います。質問は1問とし、再質問は1回までといたします。

では、委員より確認事項、質疑等を受けたいと思います。

坂本委員。

○委員（坂本一之君） 建設常任委員会は初めてなものなので、ちょっと全くわからないんですけども、この生活道路とか、幹線道路とか密着道路と非常に大事なこの道路計画網が、策定が年度末に来て、策定のあれで出て意見を出して決めるというのは、非常に拙速のような気がしてならないんですけども、これは何年かかけて当局のほうで練ってきた考えということなのか、それか、今、点線でいろいろ示されている道路計画のほうは、これは誰が決めたのか、基本的なことからはちょっと教えていただきたいんですけども。

○委員長（清水正二君） 武川課長。

○都市計画課長（武川 訓君） まず、策定につきましては、23年10月から策定の業務に入っております。また、その後、職員の庁内検討会等を立ち上げて、それぞれ意見等をいただき、昨年、先ほど説明しました市民アンケート調査等行っておりまして、若干おくれましたが、今回初めて提出をさせていただいているところでございます。

また、もう一点の構想の路線の選定につきましては、先ほど説明いたしましたが、構想路線の選定につきましては、旧町でそれぞれありました道路計画を参考、また計画書の32ページにあります。また、広域圏に関しての山梨県のマスタープランとか市の上位計画等を参照しまして、現在の交通実態の把握、市民アンケートなどを参考に、さらに、先ほど言いました職員で構成をいたします庁内検討会等で現地等を踏まえて、構想路線を決定しているところでございます。

○委員長（清水正二君） 坂本委員。

○委員（坂本一之君） 23年10月からということなんですけれども、これはいつまでということかは決まっているのか、23年10月からということは、これは繰り越しの事業になっていきますよね。そうすると、今年度中に策定しなければならないということなんでしょうか。

○委員長（清水正二君） 武川課長。

○都市計画課長（武川 訓君） まことに申しわけないんですけれども、今年度中の策定の予定で今進めております。

○委員長（清水正二君） 坂本委員。

○委員（坂本一之君） 今年度中というのと、もう3月1カ月ということの意味ということでしょうか。これでこの建設常任委員会で意見を出して、13日であれをやって、もうそれでこの10年後の計画がそのまま通っちゃうということでもいいんでしょうか。ちょっと僕初めてなので、本当にわからないんですけれども、例えば都市計画審議会とか市民とか、そういうあれは全然入っていないということですか。

○委員長（清水正二君） 武川課長。

○都市計画課長（武川 訓君） 市民というか、今、パブリックコメントをこの概要版のほうで募集をしておると、あと、都市計画審議会につきましては、3月中に開催の予定をしております。

○委員長（清水正二君） 坂本委員。

○委員（坂本一之君） すみません、その都市計画審議会に、今、まだ議会よりも先には言っていないということなんです。これと同じものを説明するということなんでしょうか。それとも都市計画審議会ですべて練ってきて、議会に示すということですか。どういうことですか。

○委員長（清水正二君） 武川課長。

○都市計画課長（武川 訓君） 今から皆様のご意見等をいただいた中で、都市計画審議会のほうへかける予定でございます。

○委員長（清水正二君） 坂本委員。

○委員（坂本一之君） 都市計画審議会ですべて議会の意見が出て、それでいろいろまた意見が出たら、今年度中というのは間に合うんですかね。これ、これが出てから例えば1年をかけて審議するというのなら僕らも納得できますし、ましてや、先ほど住民の意見とかアンケートから聞いたというのはわかりますけれども、実際これ、この点線が入ったところの自治会とか、そういう方には全く説明なくしてやるということですか。こういうもの、道路というものは、決まってから説明するということなんでしょうか。

- 委員長（清水正二君） 武川課長。
- 都市計画課長（武川 訓君） この道路網の構想につきましては、あくまでも構想でございまして、実際、路線等の決定をして行う場合につきましては、それぞれ地元の住民説明会等は予定しております。
- 委員長（清水正二君） 坂本委員。
- 委員（坂本一之君） 構想には地域の住民は入れないということですか。
- 委員長（清水正二君） 武川課長。
- 都市計画課長（武川 訓君） 一応地域を個々に説明は予定はしていませんけれども、パブリックコメントで対応したいということで考えております。
- 委員長（清水正二君） 坂本委員。
- 委員（坂本一之君） しつこいようで申しわけないですけれども、うちの会派の山本議員が前に一般質問をたしかしたことがあって、素案ができれば地元にも説明するというようなことを部長がたしか答えているのではないかなと思うんですけれども、それは確認してもらえればわかるかと思うんですけれども、やっぱり市民はパブリックコメントやったからいいだろうというのは上から目線のような気がしまして、本当にこの道路が必要なのかという整備から、構想から入ってもらったほうがいいような気がするんですが、その点はどうなんですか、こういう問題は。ちょっと教えてください。
- 委員長（清水正二君） 暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時14分

再開 午後 2時25分

- 委員長（清水正二君） 会議を再開いたします。
- 武川課長。
- 都市計画課長（武川 訓君） 先ほどのご質問にお答えさせていただきます。
- 先ほど、この計画につきましては、今年度は今の現在の部門で終了させていただきまして、新しく25年度になりましたら、諸般の手續等を行いながら、皆様のご意見、ご提言等をいただきながら進めていきたいと思っておりますので、ご理解をお願いしたいと思います。
- 委員長（清水正二君） 藤原委員。

○委員（藤原正夫君） 今の確認ですけれども、構想として考えて、あくまでも24年度は構想ということで、25年度につきまして、今言うように、皆様のご意見を聞きながら、また議員の意見やら地区の意見を聞きながら、25年度に計画性を持つということによろしいですか。

○委員長（清水正二君） 武川課長。

○都市計画課長（武川 訓君） そのとおりでございます。

○委員長（清水正二君） 藤原委員。

○委員（藤原正夫君） そうしますと、ここにあります来月13日までに提出をしまして、来月25日にまた臨時の委員会を開くということですのでけれども、これはこれでこの提言をしても、今までの計画というかあれだと、24年度4月以降に計画を、構想のところに入るということだけれども、1年おくれということになると思うんですけれども、そうすると、これはこれでやっぱり提言というか意見書はまとめるということですか。

○委員長（清水正二君） 武川課長。

○都市計画課長（武川 訓君） 現段階での、きょうお示ししました内容の中で、またご意見等をいただければありがたいと思います。

○委員長（清水正二君） 藤原委員。

○委員（藤原正夫君） ちょっと話が戻るようですけれども、ピンク、緑と、いろいろここにありますように、甲斐市は地形上、東西の幹線は整備されているけれども、南北が非常に少ないということで、これを見ても南北の縦の田敷線から始まりいろんなあれがあるんですけれども、先ほど坂本委員がおっしゃいましたように、かなりこれを見ますと、新しい道路がかなりふえるんですけれども、ちょっと聞きたいのは、一番田敷線はもう進んでいるわけですけれども、ここから起点でここからが終点だということはまだお示しができないというのか、ある程度どうでしょうか、どこどこを通ってどこどこというの、説明はできますか。

例えば、左側の双葉地区の宇津谷交差点、新山梨環状道路のインターができて、グリーン点線の点線で、上に行ったのと右に交わるところ、2つありますよね。ちょっと下げていただいて、左のその辺です。そこが左へ下りますと、今度は環状道路のインターがありますよね。そこがインターになるわけですね。何でそこがこういうふうなY字路になって延長するというのだらうけれども、これはどの辺になるんですか。

○委員長（清水正二君） 丸山係長。

○まちづくり推進係長（丸山英資君） 先ほど申しましたとおり、これは網図ということで示してありますけれども、位置的からいきますと、これですね。これというのは、ちょうど

ここがドラゴンパークですね。ドラゴンパークから農道に向かっての道があると思います。ですから、ドラゴンパークのここの道路は整備されているんですけども、この交差点付近ですね。要するに、サービスエリアを拠点として、農道を活用しながら1本道路を検討してはどうかという位置です。

同様に、ここに旧敷島の、今現在の支所とかの拠点としているエリアなんですけれども、これはやはり北西中学校のほうに向かう。もともとの旧敷島で描いた道です。ある程度、これというのは位置というよりも、本当にこことここを結ぶというイメージになってるので、路線と言われるとちょっとお答えをしにくいんですけども、考え方としますと、旧3町で合併のときに、新市の将来計画の中で3つの町を結ぶ道路があったと思うんですけども、それがまさしく赤坂のところを上りながら双葉庁舎で、現在の滝坂下今井とかの県が行っている道路を使いながら敷島を結んで、田富町敷島線で結ぶような網図になっていますので、ちょっとこの絵から始点終点を示してくれと言われると、ちょっとお答えしにくい部分がありますので、その話をしますと、よりもっと精度の高い位置を示さなければならないので、すみません、よろしくお願いします。

○委員長（清水正二君） 藤原委員。

○委員（藤原正夫君） では、ついぞと言ってはあれだけども、丸山係長、もう少しわかりやすいというのは今度は作成ができますか。ちょっとこれだと地域もわからないし、線が太くて、これだと縮小すれば50メートル道路になるぐらいの太いあれだから、もうちょっとわかりやすくお願いできないでしょうか。

○委員長（清水正二君） 花形部長。

○建設産業部長（花形保彦君） いろいろ混雑させて申しわけないんですが、この道路整備計画につきまして、今問題となっているのが構想と路線の関係だと思います。構想に伴って詳細な路線の提示、それが必要な部分だと思います。そして、今回この整備計画（案）を案として議員の皆様方に提案させていただきました。今の構想図プラス詳細の整備計画図については、これは今後、計画、構想図に基づいた路線名を提案させていただきたいと思っております。

今回は、繰り越し事業ということで、23年度からこれに策定をしてきたわけでございますが、23年度については県の補助金の関係で、今年度に繰り越しをしたということで、実際は24年度から事業のほうに取りかかっております。ですから、もう繰り越しもするわけにもいかないという部分がありますので、この計画の構想図と、そして路線図だけを除いて、この

計画の中をアンケートというか、意見提言のほうをお願いしたいと思います。そして、これが今年度、道路整備計画ということでお示しということではなくて、これは最後に、この路線の中で1つの計画案として提出をさせていただきたい。また、公表させていただきたいと考えております。

ただ、24年度事業ということで、これはもう業者にここまでつくっていただいていますので、これは1つの成果品としてうちのほうを受け取ります。ただ、今皆さんご心配されている部分があります。我々もこれを提案させていただいたということは、実際的には細かい路線を出さなくてはいけないなどは思っていたんですが、逆に、出しちゃうとまた混乱するかなという1つの考え方もございましたので、あえて構想図だけを出させていただいたという状況でございますので、先ほど申し上げましたとおり、そんなふうな形の中で進んでいきたいなと思っておりますので、ご理解をお願いしたいなと思っております。

○委員長（清水正二君） 小浦委員。

○委員（小浦宗光君） 今、部長からも説明ありましたが、やはり一番問題は、62ページの道路網の構想図、これが出てきているわけですね。これがやはり、先ほどからも話が出ていますとおり、本当にわかりにくいというか参考にならないですね。これをまた、ただの構想だからということでもって認めるというか、これでいいですよということになると、これが整備計画の中に入って、これが動き始めると思うですね。そしてまたほかに新しいこういう道路ということが出て、やはりこの計画のほうが一番優先しますから、こちらのほうを優先させて、こちらが終わったらまたそちらのほうというようなことになると思うんです。これは本当に基本にかたまってしまえば、動き始めるですね。これを一度に10年間で全部やることも多分できないと思いますし、どういう考えで進めていかれるのか。そしてこの図を見ただけでは職員の皆さんはある程度わかるかもしれませんが、私たちには本当にわかりにくくて、色がいっぱい入っていますけれども、県の道路もあるし、都市計画道路もあるし、市のほうの考え方の道路もたくさん縦横無尽にいっぱい走っていますから、やはりこれをもう少しわかりやすい図面で、多分ぼやかしてあるかもしれないんですけども、もっとはっきりと地域がわかるような図面に落としてもらって、こういうものを順に、この道路はこういう関係でもって必要な道路だとか、この道路はこことここをつなぐ道路だからどうしても必要だとか、これは県のほうの道路だからどうしても優先させるとかというような、いろいろな説明をしていただかなければ本当にわかりません。ですから、もう少しわかりやすい説明をお願いしたいと思います。

○委員長（清水正二君） 武川課長。

○都市計画課長（武川 訓君） ご意見のとおり、若干わかりづらい点もございますので、今後、先ほど部長が言いましたこの部分のほかに、図面の整理、また、先ほど部長が言いました計画路線等の提示をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○委員長（清水正二君） 山本委員。

○委員（山本英俊君） いろいろな意見が出ていますけれども、既存の道路の拡幅とか、そういう形のものわかりやすく、それでまた、新たな完全なる新設道路というのか、そういうものが分けてわかりやすく説明していただければ、またありがたいなと思うんですけれども、その辺をちょっとお願ひいたします。

○委員長（清水正二君） 武川課長。

○都市計画課長（武川 訓君） まことに申しわけありません。

今、委員さんの言われたとおり、図面等も今後作成して提出していきたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○委員長（清水正二君） 八代委員。

○委員（八代静枝君） 今いろいろな意見が出ていまして、本当にそのとおりだと思ひますし、私たちの立場からすると、こんなにたくさん道路が今から必要なのかななんて思ひますけれども、この中で、生活幹線道路のほうは非常に具体的に地図で示されていますけれども、私たち生活している者とする、生活密着道路というものも、本当に生活していく上では必要な道路ですので、これで見させていただくと、漠然とした描き方しかされていないんです。細くなるので、実際難しいことだと思ひます。でも、もう少し生活密着道路については示すことは無理なんではしょうか。お伺ひします。

○委員長（清水正二君） 丸山係長。

○まちづくり推進係長（丸山英資君） 道路網につきましては、先ほど冒頭でお話ししましたけれども、ある程度熟成されていると思ひます。例えば、甲斐市の前の県道についても、当時の規格からすれば十分広い道路だったわけですね。しかし、車の形が大きくなったりとか、今度は高規格の道路が出ていくことによって、少しずつ規格に合わなくなって、渋滞とかが発生している部分があります。

この計画については、ある程度我々市道だけではなくて、市以外で行っている国とか県の道路にも対応できるような形を市は考えていかなければいけないという部分の中で、茅ヶ岳

農道や新環状までならんだ形で、市も検討を行っていきます。

それ以外に、生活密着道路という、まさしく我々の家の前の道も生活密着道路なんですね。その部分というのは、あらかじめこれ以上道路を広げたりとかという必要性はないと思いますね。あとは維持管理の時代になると思うんですけれども、それ以外にいろんな道路が広がったときに交差点を改良したりとか、そのようなものはやっぱり位置づけていくべきかなど。

これまで同様に、いきなりこれに位置づけたからこれにないものは道路を整備をしないという考えじゃないんですね。これをもとに必要なものは整備を行いますと、それ以外に、これまで地域の自治会を通じて要望というのは、限られた予算の中で優先をつけて今までどおり進めていきますので、この冊子に載っているものしかやらないということだけではないので、それだけご理解ください。ですから、規格を100からゼロ全てということじゃないので、本当に密着するものというのは、すぐに直さなければいけないものというのは、これまで同様に建設課で今やっているものですから、一応細かいものまではこの計画には載りませんので、よろしく願いいたします。

○委員長（清水正二君） 八代委員。

○委員（八代静枝君） 甲斐市の道路には、行きどまりの道路とか、多分消防車が入れないような道路とか、結構そんなふうな道路がたくさんあると思うんですけれども、そういうものには本当に具体的で細くなっちゃうので、そんなことまではこれには載せられないことはわかっていますけれども、何となくこれをすると、具体的にもうちょっと密着道路のほうは、これ以上は無理ということですね。できないということですね。これ、生活密着道路の関係は67ページにある、ここだけということですよ。

○委員長（清水正二君） 丸山係長。

○まちづくり推進係長（丸山英資君） これまで甲斐市が合併してから道路整備を行ってきたわけなんですけれども、ここまで大きな形で道路区分をしていなかったわけですね。これから限られた予算の中で効率かつ健全な建設事業を行っていくには、やはり計画が必要であるという観点から、この計画を位置づける理由の一つでもあります。

まさしく生活密着道路というものも市道として考えていくという中で表記されていますので、これまで、甲斐市の市道に対して何も表記がないわけですね。今後、この表記に基づいて、先ほど課長が言いましたけれども、関係課の職員が携わった形で、このような位置づける的なものを検討してまいりましたので、これをもとに区分を定めていくというような考え

であります。ですから、67ページというのは、密着道路とすれば通学路みたいな整備ですね。既設ある道路で開渠なんですけれども、通学路になっていて川に落ちるかも、危ないかもしれない。まさしくそういうものを今の道路構造物でボックス化することによって、既設の換地の中で歩道を整備するとか、そういうのがまさしく生活密着かなと考えております。

ですので、一応この計画では細かい生活道路までの網図はつくらないので、ご理解をお願いいたします。

○委員長（清水正二君） ほかに質疑はございますか。

坂本委員。

○委員（坂本一之君） 確認なんですけれども、25年度以降に計画の整備路線というものが示されるということですのでよろしいですね。その示されて審議するには、市民とか計画審議委員会とかがかかわって、この道路が本当に必要なのか、将来的に本当に必要なのかということも審議することができるということですのでよろしいでしょうか。

○委員長（清水正二君） 武川課長。

○都市計画課長（武川 訓君） そのようにお願いしたいと思います。

○委員長（清水正二君） 坂本委員。

○委員（坂本一之君） そうしないと、市民も一番大事なことです。構想ばかりが上がっていて、市民のほうからここは要らないということが後から出たというのはいまないので、その辺は十分、こういうものは大事なものです。時間をかけてもいいかと思っております。多分、拙速に道路を求められているところではないかと思っております。いろんな意見を聞きながら道路行政というものをやっていかないと、一番骨幹になるところだと思っております。その辺はよろしく願いいたします。

以上です。

○委員長（清水正二君） ほかに質疑はございますか。

〔発言する者なし〕

○委員長（清水正二君） なければ、委員の質疑を終了いたします。

続いて、傍聴議員の質疑を受けたいと思います。

内藤議員。

○議員（内藤久歳君） 先ほどの委員さんの中からおおむね意見は出たと思うんですけれども、第6章ですね。ここの部分が今、提示されていないということだと思っております。計画があつて、要するに整備計画を策定するという、その部分が欠けているというようなご意見

があったですよ。やっぱり短期、中期、長期という中で、具体的にそういうものが示されていないということがご意見のようですので、重複する部分もあると思いますけれども、あと延長ですよ。短期でどのくらいやるのか、中期でやるのか、そして後期でどうやるのかという、そういう延長ですよ。そんなことも含めて、詳細の整備の内容も次に示していただけるということによろしいですか。

○委員長（清水正二君） 武川課長。

○都市計画課長（武川 訓君） 先ほど、部長も答弁したとおりでございますので、そのようにいたします。

○委員長（清水正二君） 斉藤議員。

○議員（斉藤芳夫君） この整備計画（案）を見て、38ページのところに、甲斐市都市計画マスタープラン平成40年までというふうで、いろいろ構想なり計画がうたってありますね。見ていくと、今度、防災の緊急輸送道路の構想図があったり、新都市将来構想というところには、平成25年度でもう一回見直すというような内容のようです。それから、第6次高齢者保健、これは26年度、次の地域福祉計画は28年、障害者計画、障害福祉計画は28年とか、この時期のずれのそのたびに見直すという部分が非常に大変な作業のような気が私はするんですよ。どこからどこまでができたから、ここから先はできていないから、もう一回作り直さなければいけないとかというふうになると思うんですけれども、これを長期で一遍に40年とかという計画に統一するというようなことは考えられないですか。

○委員長（清水正二君） 丸山係長。

○まちづくり推進係長（丸山英資君） 今、各種計画の策定年度、また見直し年度が違う中での統一化というお話ですけれども、基本的に道路整備計画というのは、まさしく甲斐市総合計画、その次の甲斐市都市計画マスタープラン、また、関連する上位の県の都市計画マスタープランが基本的な計画であります。しかし、都市計画だけの計画を配慮するというのではなくて、近年、福祉においてもバリアフリーとか、いろんな形で計画でうたわれております。例えば、47ページにあります第6次高齢者福祉保健計画とかありますけれども、この中ではバスをうたってみたり、歩道や信号機、安全対策という、このような計画を確認しながら、我々も道路構造的なものを考えたいということで参照しておりますので、関連する計画が更新されたからまたそれで見直すというものではないので、一応ご理解をお願いしたいと思います。

この計画は、上位計画で示す中であくまでも道路整備計画ですから、我々も何もないもの

ではなくて、上位の県の計画とか32年度、もし計画するものができた場合を想定したときに、甲斐市の道路網は何だろうというのが、上から見たのがこちらの図面です。この部分を検討していきますので、道路整備計画については、3ページにありますけれども、各種計画が変更になったから見直すのではなくて、おおむね10年間整備計画を策定して、社会経済情勢等の変化に応じて、おおむね5年をめやすとして適切な時期に見直しを考えていくという内容ですので、ご理解をお願いいたします。

○委員長（清水正二君） 名取議員。

○議員（名取國士君） ちょっと伺いたいですけれども、今の図面の双葉のスマートインターの周辺で、大型が出られないとか、その計画は道路だということで、前もそういう質問をもらったんですよ。今回、そういうようなものは載っているんですか。わかる範囲でいいです。

○委員長（清水正二君） 武川課長。

○都市計画課長（武川 訓君） スマートインターにつきましての大型の通行の関係につきましては、この計画とは別に、今現在、滝坂希望ヶ丘線と開発1号線の整備を行っております。それが完成次第、インターが大型化になる協議等をしておりますので、その予定で、完成次第、あそこはそういう形になるという方向です。ただ、この計画ではまた別に。

○委員長（清水正二君） ほかに質疑はございますか。

〔発言する者なし〕

○委員長（清水正二君） なければ、傍聴議員の質疑を終了いたします。

以上で、甲斐市道路整備計画（案）についてを終了いたします。

引き続き、次第の2のその他に入ります。

都市計画課よりその他報告等がありましたら、お願いいたします。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） 次に、委員より、都市計画関係で特にお聞きしたいことがありましたらお願いいたします。

〔発言する者なし〕

○委員長（清水正二君） ほかに質疑がありましたら受けませんが、ございませんか。

〔発言する者なし〕

○委員長（清水正二君） 次に、委員会関係で、委員からその他ありましたらお願いいたします。

[発言する者なし]

○委員長（清水正二君） 次に、事務局からありましたらお願いいたします。

松井書記。

○書記（松井恵美君） 先ほどお話のありました道路整備計画の意見提言書につきましては、3月13日水曜日までに議会事務局まで提出をお願いいたします。また、この意見提言書の内容をもとに、次回常任委員会につきまして、委員会予備日となります3月25日月曜日午前11時から開催いたしますので、あわせてよろしくをお願いいたします。

以上です。

○委員長（清水正二君） 以上をもちまして本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして建設経済常任委員会を閉会いたします。

ご苦労さまでした。

閉会 午後 2時56分